

# 米をテーマに料理コンテスト 新たな食の顔創出へ



収穫を迎える棚田で稻刈りを行った寺戸邦夫さん

益田市は、海辺の平坦地から中山間地まで豊かな自然の中で特色ある農産物が生産されている。それに着目した同委員会の長谷川健委員長(43)は「世間ではB級などのグルメブーム。ここは海や山、川の幸に恵まれた良い土地ですので、『食』のブランドを考えてもらおう」という意見

**【石西地区】**「益田の味、ブランドをつくる」と日本食の原点“米”をテーマにアイデア料理コンテストを企画した、益田商工会議所青年部(益田市元町・寺戸輝久会長=41歳、64人)。同コンテストは、ブランド創造に併せ、地産地消や地場産業の振興なども目的にしている。応募は、先月20日で締め切られ、10月の本審査で“新たな益田ブランド”が決定する予定だ。

## 益田商工会議所青年部

青年部の会長に今年1月就任した寺戸さんは「益田に人を呼ぶために何かできることがないだろうか」と考え、「足りないのはブランド力。『益田と言えばこれ』と言えるものがほしい」と部内にブランド創造委員会を立ち上げた。

## 地域活性化につなげたい “おいしいアイデア”募集

ドでいこうと決めた」と話す。検討の結果、“米”をテーマに、地元特産品とコラボ

同市真砂地区の棚田38枚(54ha)で水稻栽培に取り組む寺戸邦夫さん

(齋藤嘉)

（51）は「棚田なので管理が大変ですが、そのぶん米への愛着が持てますよ。新米の時期なので、このコンテストでおいしいアイデアが飛び出すといですね」と期待する。

応募は、8月20日で締め切り。今後、書類審査を経て、10月10日の最終審査で益田の新ブランド「ぶちうまい おごっそう」が発表される。これまで、書類審査を経て、10月10日の最終審査で益田の新ブランド「ぶちうまい おごっそう」として、最優秀賞1品と優秀賞2品が決定する予定だ。寺戸会長は「このコンテストが生産者をはじめ、関係機関や企業、消費者の結びつきを強くし、益田産品の消費拡大や地域の活性化につながれば」と話している。



「市内の飲食店やスーパーで商品化ができるといいですね」と青年部のメンバー。右から長谷川委員長、寺戸会長、商工会議所事務局の藤井正也さん(24)

身近な話題から  
ハートを伝える

# 島根版

お問い合わせは

NOSAI 島根

〒690-0887

松江市殿町105

☎0852・21・5188

<http://www.nosai-shimane.jp/>

